

# 近畿中国局フォレスターNEWS

## ケーススタディ地区における第1回打合せ会議を開催(広島県神石高原町)



打合せ会議の様子



新免地区町行造林での現地検討

9月1日、広島県、神石高原町、神石郡森林組合、広島北部署の関係者13名が出席し、三和協働支援センターの会議室(神石高原町)において、「第1回ケーススタディ地区打合せ」を開催しました。

近畿中国森林管理局では平成28年度から、神石高原町をケーススタディ地区に設定し、広島県、広島北部森林管理署、広島森林管理署の森林総合監理士(フォレスター)等が連携して、同町の森林整備計画の策定・実行監理等に向けた支援等に取り組んでいるものです。

当日は、広島県の担当者から新たな森林共同施業団地の候補地についての説明が行われ、新免地区において県営林、町行造林、私有林、座床山国有林(神石高原町)による新たな団地化の設定に向けた取組を優先して行くことが確認されました。午後からは、森林共同施業団地候補地の町行造林に場所を移動し、県営林との位置、地形、林況、作業道ルート等について確認しました。

広島北部署は、今後もケーススタディ地区における民有林と連携した取組を積極的に進めていきます。

※**ケーススタディ地区**とは、市町村森林整備計画の策定・実行監理等のフォレスター活動に際し、国有林としての支援の取組過程や方法等を実地で検証していくために設定する地区のことです。

ここでの取組は、フォレスター活動の事例の一つとして、他の地域に普及・啓発していくことを目的としています。

## 滋賀森林づくり推進協定に基づく運営会議を開催(滋賀県)

滋賀森林管理署は、9月13日、同署会議室において、昨年3月29日に締結した「滋賀森林づくり推進協定」の第1回運営会議を開催し、(一社)滋賀県造林公社から3名、当署から5名の計8名による会議を行いました。

会議では、(一社)滋賀県造林公社の販売生産課長補佐に挨拶を頂いた後、①運営会議の趣旨を再確認するとともに、②相互の事業予定などの情報共有を行い、これらを踏まえ、今後の具体的連携について意見交換を行いました。その中で、今後の連携に向け検討が必要な箇所について認識を共有するとともに、流通コスト縮減のための土場敷の確保、架線系作業システムの取組、間伐率の管理方法、連携箇所での現地検討会開催に向けた意見が出されました。

また、近年自然災害等の発生が頻繁にあり、事業の連携だけでなく、相互の事業地等における倒木や山地被害の状況について、情報の共有を行いたい旨の意見もありました。

会議終了後は、大津市内に所在する(一社)滋賀県造林公社の事業地の中間土場を見学し、情報交換を行いました。公社からは、この土場に集積した材は県内での販売を考えているが、県外での販売価格が高いため苦慮していることや、末木枝条の販売ルートなどについて説明を受けました。さらに、森林作業道の作設状況と集材の状況等を確認しました。今後も情報の共有を強化しつつ、より地域に貢献できるよう取組を継続していくこととしています。



運営会議の様子



中間土場での意見交換

## 地上型3次元レーザースキャナシステムの研修会を開催（山口県）



システム機器を操作しての現地調査の様子



データの活用方法を説明

山口森林管理事務所は、9月18日、滑山国有林(山口市)において、森林共同施業団地におけるより効果的な森林資源情報の把握を図ることを目的とした、地上型3次元レーザースキャナシステムの操作技術を習得するため研修会を開催しました。

出席者は、森林共同施業団地協定者である山口市、(財団法人)やまぐち農林振興公社、山口水源地整備事務所、山口中央森林組合から合わせて9名、当事務所7名の16名が参加しました。

近畿中国森林管理局では、最新のICTを活用した簡易な手法により森林資源情報や位置、面積情報を把握する場合の精度や利便性について、他の手法との比較検証を各署等で行うこととしています。

当日は、森林技術・支援センター職員を講師に、システム機器の概略や操作方法、注意事項等の説明を受け、実際に現地調査を行い、現場でパソコンによるデータの確認などを行いました。

2日目は、山口森林管理事務所の会議室において、システム機器のデータの活用方法やシステムのメリット、デメリットなどの説明を受けました。出席者からは、計測時には機器を地面に垂直に設置する必要があるため、平坦な地形が計測に向いているとの感想が聞かれました。

今後、当該システムにおける調査区域の立木調査や地形の把握、森林調査簿等の修正など、新たな森林管理の活用に向けた検討を進めていきます。

## 育林コスト削減に向けた現地検討会を開催（大阪府）

京都大阪森林管理事務所は、10月16日、箕面国有林において、路網、高性能林業機械、列状間伐を組み合わせた低コストで効率的な間伐の取組や一貫作業システムによる育林コストの低減の取組などについての現地検討会を開催しました。

箕面国有林は大阪府北部の箕面市に位置し、全域が「明治の森箕面国定公園」に指定されており、すぐれた森林景観に恵まれていることから、森林を利用した保健・文化・教育活動の場として多くの国民の皆様方に利用されている国有林です。また、地元の市民団体や関係行政機関と連携しながら、環境整備、生物多様性の保全に取り組むとともに、様々な市民団体にへ活動の場を提供するなど、当所における特徴的な国有林の一つです。当日は、一般市民、NPO、行政機関、当所職員など約30名が参加し、チェーンソー、プロセッサ、フォワーダなどを組み合わせた高性能林業機械における作業行程やコンテナ苗を活用した一貫作業システムなど、国有林が取り組む育林コストの低減についての理解を深めました。

参加者からは、「間伐作業における1日の生産性はどのくらいか」、「高性能林業機械の値段はどのくらいか」、「箕面国有林では天然更新は可能か」、「森林作業道を利用して、マウンテンバイクの大会を開催したい」など様々な御質問や国有林の利活用に対する御意見・御要望などをいただき、活発な意見交換ができ、たいへん有意義な現地検討会となりました。



高性能林業機械の実演の様子



間伐作業地での説明

## 森林共同施業団地（高津川流域）関係者と現地検討会を開催（島根県）



現地検討会の様子



伐採と造林の作業連携について説明

島根森林管理署は、10月24日に伐採と造林の一貫作業を行っている杉山国有林(鹿足郡吉賀町柿木村)において、高津川流域の森林共同施業団地関係者を対象に現地検討会を開催しました。この検討会を開催するにあたって、「林業の低コスト化に向けた取組について、どのような内容の検討会を希望されるか。」というアンケート調査を行いました。その結果、特に関心の高かった「伐採と造林の一貫作業」や「森林作業道」について現地検討会を行うこととしました。

当日は、島根県西部農林振興センター益田事務所、松江水源林整備事務所、島根県林業公社、高津川森林組合、吉賀町、島根森林管理署等から17名が参加しました。

検討会では、当署の担当官から近畿中国森林管理局での一貫作業などの低コスト化の取組の紹介、当該地の事業内容及び森林作業道の排水対策などについて説明しました。また、コンテナ苗植付前の枝条の整理状況や植付に使用している植栽器具についても説明し、植付区域を確保する方法や器具の特性などについて理解を深めました。

さらに、この事業を実施しているJV(共同事業体)からも、機械を使った枝条整理、資材運搬などの、伐採と造林の作業連携などについて説明がありました。

参加者からは、「主伐時期を迎え小面積の皆伐を検討する中で、伐採と造林が実施されている様子や森林作業道の維持管理など今後の参考となった。」などの意見が聞かれました。島根森林管理署では、林業の低コスト化への取組など、森林・林業関係者の技術を高める活動を通じて、地域林業の成長産業化への一助となるような取組を続けていきたいと考えています。

## 造林・育林コスト削減を目指した現地検討会を開催（近畿中国森林管理局）

近畿中国森林管理局では、国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林総合研究所関西支所との共催により、10月11～12日に、コンテナ苗や一貫作業システムによる造林・育林コストの削減をテーマとする現地検討会を岡山県新見市内で開催しました。

この現地検討会は、近畿中国森林管理局と森林総合研究所関西支所との間で締結している技術開発・普及等に関する連携協力協定に基づく取組の1つとして、平成25年度より、民有林関係者の方々を対象として開催しているもので、今年度は、2日間で延べ195名の参加がありました。

1日目は、室内で、コンテナ苗や一貫作業システムに関する基礎知識や近畿中国森林管理局における取組、コンテナ苗の活着・生育実証試験の結果、コンテナ苗の生産効率化のための取組について、各機関から説明しました。

2日目は、平成26年度に一貫作業システムによりコンテナ苗を植栽した入開山(いりがいやま)国有林(岡山県新見市)を会場として、コンテナ苗の生育状況の確認やコンテナ苗の植栽体験を行っていただきました。参加者からは、「コンテナ苗や一貫作業システムを推進していきたいが、コンテナ苗の価格を下げつつ品質を確保することや安定供給体制の確立が必須である」、「伐採と造林の業者が異なる場合に作業連携が難しい」、「実際の作業工程についてもっと知りたい」といった声が聞かれました。近畿中国森林管理局は、引き続き森林総合研究所関西支所と連携し、このような課題やニーズを踏まえつつ、今後とも現地検討会の開催等を通じて、林業の低コスト化に資する情報発信に取り組んでいきます。



各機関からの取組を説明



コンテナ苗の植栽を体験

**森** 林共同施業団地（県を跨いだ）における取組についての現地見学会を開催（三重県）



開会式の様子(平成30年度中間土場作設地)

複数府県を跨いだ国有林フォレスタ活動として、平成30年10月31日(水)～11月1日(木)、三重森林管理署管内において、「三重県・岐阜県境を跨いだ民有林と国有林との連携による森林共同施業団地の取組」をテーマに林業の成長産業化に向けた現地検討会を(国研)森林研究・整備機構 森林整備センター中部整備局と共催で開催しました。

検討会には、三重・奈良・和歌山の各県、森林整備センター(本部・中部整備局等)、林業事業体、国有林職員など2日間で延べ186名(うち民有林関係者127名)が参加しました。

また、県を跨いだ森林共同施業団地の取組であったことから、岐阜森林管理署からの参加もありました。



森林整備センターによる路盤改良の実演

1日目は、三重森林管理署長から開会挨拶の後、悟入谷国有林(いなべ市)の現地において、三重署の各担当から森林共同施業団地の概要、国有林での木材生産や搬出、システム販売、シカ捕獲事業、植付、獣害防護ネットの設置について説明を行い、近畿中国森林管理局の石田企画官から、「林業事業体の生産性向上」について、民有林での優良事例の紹介を行いました。

森林整備センターからは、鉄鋼スラグを用いた簡易な路盤改良の説明及び実演を行い、事前に施工した鉄鋼スラグによる路盤改良箇所と、当日、実際に鉄鋼スラグを敷き固める状況を見て頂きました。

2日目は、NTNシティホール(桑名市)に場所を移し、前日に引き続き、森林整備センターからは鉄鋼スラグを使用した簡易な路盤改良の補足説明、三重署からドローンにより上空から撮影した森林共同施業団地の林道(大型トラック搬出)、中間土場(木材集積場)、民国連携した連結作業道の作設状況、平成29年度複層伐の状況、平成30年度の植栽作業中の獣害防護ネット設置状況の映像をご覧頂き、その後、写真を用いて民有林・国有林での森林共同施業団地の取組の説明を行いました。

質疑・応答では、森林共同施業団地での中間土場の設置基準や連結作業道を国有林内に作設する場合の取り扱い、三重県・岐阜県を跨いだ保安林内作業許可の手続き等の質問がありました。

また、森林整備センターへは、鉄鋼スラグによる路盤改良箇所において、高性能林業機械による木材搬出の可否等の質問がありました。



国有林の低コスト造林地、獣害防護ネット設置の状況を説明

現地検討会を開催した森林共同施業団地は、三重県及び岐阜県を跨いで設定しており、木材搬出にあたり国有林の林道を利用することで、民有林サイドも効率的に木材搬出、森林整備を継続的に行うことが可能であることから、今後も、この地域で関係者と連携しながら林業の成長産業化に向けた取組を進めていきます。



三重テレビの取材がありタ方に放送されました



意見交換会の様子

林野庁  
近畿中国森林管理局  
技術普及課



TEL : 06-6881-3524 FAX : 06-6881-2055  
URL : <http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/>

編集後記

各署等においては、林業の成長産業化を目指した様々な取組を民有林関係者等に見て頂く現地検討会が開催されています。この現地検討会を通じて、民有林関係者による地域の森林づくりの参考になればと思います。

また、今年も残すところ一カ月となりましたが、各事業の進捗状況を振り返り、引き続き無災害で取り組んでいきたいと思っています。